

教育相談・地域支援担当から

秋の公開講座のお知らせ

10月の「きてみてであうあさお週間」に合わせ、麻生校舎では10月5日(月)の午前中に、文京学院大学の臨床心理士・公認心理師 澤口ゆりあ先生をお招きして、『ひとり抱えない子育て～臨床心理士が伝える相談のヒント～』というタイトルで保護者の皆様や、地域の方々へ御講演いただく予定です。澤口先生の御経験も踏まえて、保護者の皆様からの子育てに関する相談を御助言いただきます。申し込みについては先日配信したすぐーるのチラシ、または学校ホームページを御確認ください。



スヌーズレンルームの紹介

スヌーズレン(snoezelen)という言葉は、オランダ語の「くんくんにおいをかぐ」という意味のスヌッフレンと「くつろぐ」、「うとうとする」という意味のドースレンという2つの言葉からできています。スヌーズレンは、「探索」と「リラクゼーション」の両方の意味を兼ね備えています。(国立特別支援教育総合研究所より)。

本校3Fにも、スヌーズレンルームがあります!様々な色のイルミネーションライトや光と泡のバブルユニットなどの電飾で様々な光を楽しめます。穏やかな音楽を楽しんだり、マットレスで横になったりと、過ごし方は様々です♪ 児童生徒が思い思いにリラックスできるスペースで、大人気です☆



夏の学習会

7月28日(火)、本校教職員に加え、地域の小中高等学校、特別支援学校の方々が参加して、夏の学習会を行いました。学習会では、横浜国立大学の泉真由子先生をお招きして御講演いただきました。

「愛着とはなにか／愛着に課題のある子供との関わりについて」というテーマのもと、愛着障害について深く学ぶことができました。今回の学びを、これからの子どもたちとの関わりに生かして参ります。



移行支援(進路)担当から

卒業生のアフターフォロー

毎年夏季休業期間を利用して、直近の卒業生の進路先に進路担当や元担任がお伺いし、御本人の活動の様子を見学したり、スタッフの方から様子をうかがったりしています。

卒業してから数カ月が経過して、徐々にそれぞれの環境や活動内容などに慣れてきている様子を知ることができました。また、どの進路先も御本人の様子に合わせてさまざまな支援をしてくださっています。そのため、在学時より成長した姿が見られたり、充実ぶりが感じられる表情で仕事をしている姿が見られたりしました。

保護者の皆様におかれましてはさまざまな心配事もあるかと思います。通所先の事業所や職場のスタッフへの相談はもちろんですが、区役所障害課の担当ケースワーカーや契約している計画相談事業所の相談員さん、また横浜では各区にある基幹相談支援センター、川崎では各区にある障害者相談支援センターなどが、卒業後も相談できる機関になります。困ってしまったら、学校でももちろん御相談を承ります。

計画相談事業所とのつながりは卒業後福祉サービスを利用するために必要ですが、機会があれば在学中から身近な相談先としてあると良いと思います。

高等部2年対象 夏の個別施設見学

高等部になると卒業後の進路先を検討するために、施設等の見学をしていきます。高等部2年生には夏季休業を利用して、保護者の方と一緒に生徒本人も福祉施設の見学をしてもらいました。今回見学に参加できた生徒は学校卒業後にどういうところに通って、どんな活動をするのかなど、実際に見て感じるものがあつたろうと思います。参加された保護者の皆様には、御多用の中、御協力ありがとうございました。進路選択に向けて良い機会となっていたら幸いです。また、「冬の個別施設見学」も設定しますので、よろしく願いいたします。

教員研修(株式会社JALサンライト見学)

8/4に「株式会社JALサンライト」の天王洲事業所に見学にお伺いしました。天王洲事業所では、「空の旅を支える業務」、「社員の仕事を支える業務」、「社員の日常・ライフプランを支える業務」、「新たなチャレンジ業務」を遂行しています。はじめに社員の方からの話を聞き、その後社員の方々の仕事を見学しました。企業理念を体現する社員の皆様の勤労観や職業観に大変感銘を受けました。見学で見たことや学んだことを今後の日々の支援に活かしていきたいと考えています。

サタデーセミナーのお知らせ

今年度のテーマは「卒業後の暮らしについて～成年後見制度～」(仮)です。『麻生区あんしんセンター』の方を講師にお招きして、御講演いただく予定です。12月中の土曜日を予定しております。日程を含めた詳細については、改めて御連絡させていただきます。

次号は3月に発行予定です♪

